

育友会 活動モットー 「ご父母・保護者には安心を、 学生には自信を」



令和元年度育友会長 小林 宏

まず初めに、全国 17,000 人の育友会会員の皆さま、全国の支部役員の皆さま、本部役員の皆さま、大学教職員の皆さま、最後になりましたが総勢 6 名の育友会事務局の皆さま。本当に一年間お世話になりました。そして有り難うございました。

振り返れば、愛する娘に、本当に来るのと言われながらも入学式に付き添い、そこから私の育友会活動がスタートしました。

育友会会長という襷を引き継ぐとき、私の前任会長である佐々木さんが大切にされて来られた「ご父母・保護者には安心を、学生には自信を」という育友会活動のモットーを、私も大切にしていきたいと思いました。まさに会長としてのスタートはその思考から始まりました。

発足して 61 年という伝統ある育友会の会長として何ができるのか、何をすべきなのか。

私が出した答えは、次の世代に育友会の活動モットーをしっかりと引き継ぐということでした。

60 年前も、60 年後も、ご父母・保護者が学生を思う気持ちは何も変わらないと思います。学生たちが、日々自信をもって学ぶ姿を見ることがご父母・保護者の安心につながると。その過程の中で、育友会の会長として少しでもお役に立てるのであれば、そんな思いで育友会活動を始動した一年でした。

その中で、本部役員の皆さんと共に「活動推進委員会」という新しい組織を立ち上げました。継承すべき伝統を再確認し、時代の変遷の中で変えていくべきことを整理していく。

委員会活動としてはまだ道半ばではありますが、

新たな試みとして 6 月からご父母・保護者の皆さまに向けて「メールマガジン」の配信をスタートさせるなど、熱い気持ちを持った委員の皆さまと共に、60 年後を見据えた活動を行ってまいりました。

そして、暑い熱い夏の盛りに、全国 67 の支部で育友会最大の事業「支部懇談会」を開催することができました。近年、新入生の 7 割が首都圏からという現実の中、地方支部における会員数の減少、それに伴い役員の担い手がいないという問題が起こっています。地方支部の声をしっかりと聞き取りながら、様々な課題について大学と歩調を合わせ継続して対応するべきだと考えます。

順調に育友会の活動を行っていく中、年が明けて新型コロナウイルス感染症という脅威によって、会の運営に暗雲が立ち込めてまいりました。大学の学事暦の中でも節目である、3 月の卒業式、4 月の入学式が中止となり、育友会の活動も当然ながら制約を受けることになりました。その中で育友会活動の根幹である、令和 2 年度の「定期総会」、育友会最大の事業である「支部懇談会」の開催中止という苦渋の判断をいたしました。

昭和～平成～令和と繋いできた育友会の襷を、そして育友会の活動モットーを、次の世代にどう継承していけるのか、感染症の脅威により難しい局面ではありますが、新年度会長の新澤さん、新しい本部役員の皆さんであれば乗り切っていただけるものと信じています。改めて、次年度の新澤執行部にエールを送り、私の退任の挨拶とさせていただきます。